

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300051		
法人名	株式会社 おいでの里		
事業所名	グループホーム スローシティピアノ	ユニット名	ソナチネ
所在地	延岡市平原町1-854-1		
自己評価作成日	平成26年01月14日	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kanitrue&amp;lievsvocd=4590300051-00&amp;prefcd=45&amp;versioncd=022">http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kanitrue&amp;lievsvocd=4590300051-00&amp;prefcd=45&amp;versioncd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成26年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「スローシティピアノ」では、ゆっくりを基本に個人の持つ能力を最大限生かせるよう工夫を重ねながらケアを進めている。利用者様の日々の様子を写真にとり、メッセージを添えてピアノ日よりして毎月御家族にお届けしている。また、よりよいケアをするために、全職員実践や研修等に参加し、スキルアップに励み認知症を深く理解している。若いスタッフが多く、明るく元気な職場である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者からの希望が出やすい食事には特に力を入れている。治療に役立つ健康づくりのためのメニューにこだわり、職員と利用者と一緒に作業をしたり、利用者の指導の下に調理するなど、毎日の生活の楽しみとなるように気を配っている。また、行動障害のある利用者があっても、薬だけに頼ることなく、主治医と連携を取りながら職員の対応で改善していけるように取り組んでいる。職員教育には力を入れており、資格取得のための費用や就業時間の工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念に基づいて、利用者のニーズに応えられるよう、月に1度の定例会や職員間での話し合いを常に心がけ、チームケアを大切にしている。	ゆっくりと利用者を急がせないように努めている。毎日のケアの中では、業務のために職員が忙しくする場面も出てくるが、そういう時にも職員間で注意し、理念を確認するよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りでの交流や防災訓練の参加活動を行っている。	ホーム開設当初の苦情などは、全くなり良好な関係が持っている。年に数回のイベントでは交流している。	ホームが特別な場所とならないよう、地域の中に溶け込み、住民とつながりを持てるような働きかけをしていくことを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同市内の福祉大生の研修の受け入れ、アルバイトの受け入れを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、第二木曜日の午後2時から開催している。利用者の状況報告や活動予定を話したり、質問の受け付けをしたり、また、指示を仰いでいる。	声掛けにより家族の参加が毎回ある。ホームの実情や経過報告になりがちであるため、双方向の会議ができるように議題を用意し、事前に知らせるように取り組もうと計画している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者に電話や直接出向いて、書類の適切な書き方や支援についての指導を受けている。	分からないところや指導が必要と考えた場合は、すぐに担当者に相談し、問題を解決するようにしている。その折に、ホームの現状などを報告し、協力体制を保っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の参加をもとに、身体拘束をしないためのケアについての話し合い等を行い、ケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する勉強を継続して行っている。安全と自由との兼ね合いを今いちど考えながら、今後のケアに生かせるように、職員の間で確認していく計画である。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加に加え、定例会等でも日頃の介護が虐待になっていないか話し合い、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、権利擁護の制度について認識している。職員も学習できる場を持ち、活用できるようにしていきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際は、契約者の納得がいくまで説明を行い締結している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会を通し、外部から意見を頂く機会を設けている。家族からの意見や要望には、随時対応している。	家族の来訪時に日常生活の様子を伝え、家族からの意見や以前の情報を引き出すように努めている。今後は出された意見を運営に反映し、それを家族に伝えるシステムを作ろうと考えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見がでると、室長から管理者へと話があがるようになっていく。また、管理者会議、室長会議、定例会と意見交換の場を設けている。	管理者が職員の意見を積極的に聞く姿勢を持っているため、遠慮せずに意見を出すことができる。今後はそれをすばやく運営に反映させるように、話し合いの機会を持つよう努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は正規雇用、パートからなるが、全ての職員が向上心を持って働ける環境整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフが順番で研修に参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設での見学会、勉強会の計画がある。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が困っている事はないか、日頃のコミュニケーションを大切にしている。また、普段から見逃している所はないか、様子観察も行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には、家族とのコミュニケーションも大切にしている。家族が要望を話しやすい環境作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会の際には、本人と家族が求めている支援の見極めに努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができる事は共にしてもらい、共感し、信頼しあえる関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人と、家族との関係の理解に努め支援している。面会時には状況報告に努め、本人と家族との絆が深まるよう支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば馴染みの理・美容室に出かけている。また、家族だけでなく、昔の同僚との面会をされる方もある。	利用者への来訪がある場合、お茶を出したり、また遠方からの方には昼食の用意をするなどして、気持ちよく過ごせるように気を配り、いつでもホームに来やすい雰囲気づくりに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを充実させるよう毎月計画をたてている。皆で協力して同じものを作ったり楽しんで、自然と交流できるようにしている。また、なじみの顔ができ、安心して会話できるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族からの相談があれば支援していくよう努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が、一人ひとりの思いや希望に関心が持てるように、コミュニケーションを大切にとっている。理解が困難でも皆で話し合い、理解に努めている。		言葉によるコミュニケーションだけに頼らず、毎日の生活をしっかりと観察し、日常を知ることにより、少しの行動や表情の変化から、利用者の心の動きを察する努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時、利用者の生活歴や馴染みの暮らし方を伺っている。それまでの生活に馴染みの物や人、趣味・習慣等を把握し、対応できるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子観察、記録チェックを大切にし、朝礼、申し送りで職員全員が状況把握に努める。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見のしやすいBS法にて、本人、家族の求める介護について意見をだしあっている。それを基に介護計画を作成し支援している。		担当者会議などで、家族の意見を取り上げるように気を付けている。介護計画は職員全員で情報交換を行いながら立案し、介護計画と取り組みがかみ合うように、モニタリングを毎月行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録で一日の様子を、センター方式で一週間の記録をし、その都度気づきがあれば記録し、実践につなげている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のその時々状況把握に努め、それに応じて柔軟な対応ができるように支援している。			

宮崎県延岡市 グループホームスローシティピアノ(ソナチネ)

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の大学生により祭りの実施や体操をしたりとふれあい、ボランティアでは演芸を楽しまれている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力機関をかかりつけ医とし、月に二回の往診で馴染みの関係を築いている。	基本的には協力医療機関に主治医を変更し、専門的な診療はそれまでの主治医に、職員と一緒に受診している。その際の受診表を作成しており、申し送り事項などを記載し、家族には電話連絡を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が日常でかかわった中での状況変化を、管理者、看護師に報告している。24時間対応できる体制作りをしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、家族と病院機関との密な連絡と、情報交換に努めている。退院後の環境整備をととのえておく。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族の意向や希望に沿えるよう、医療・介護がチームとして支援できるよう取り組んでいる。	昨年は一例の看取りを経験し、家族との話し合いを重ねながら、最後まで協働して取り組めたことが職員の自信につながり、今後も受け入れていく方向で、初回から家族と話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、応急手当の訓練、施設内研修を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者がその時々災害で避難できる訓練を行っている。これからも地域の方々の協力を得て計画的に実施していきたい。	災害対策の委員会や責任者を決め、計画的に避難訓練にも取り組んでいる。取組は写真などに撮り、記録に残し、問題点の洗い出しに役立っている。	夜間想定や職員の人数が少ない時の実際の動きなど、実際に行うよう期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族からの情報提供や日頃の介護で利用者の性格の把握を心がけ、利用者を尊重した言葉かけに努めている。		基本的には敬語を使用するが、個人に合わせた距離感を考えながら、一人ひとりに合わせて言葉かけをするように取り組んでいる。また、失敗の場面もプライドを傷つけないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の希望や思いを表せる雰囲気を作り出せる場面を大切にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、どのように過ごしたいのか希望に沿えるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれを楽しんで頂けるように、家族の支援でお好きな物を持ってきてもらっている。職員と一緒に選んだり、自己決定できる場面があるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握し、楽しい雰囲気で作る事ができる環境作りを大切にしている。たまにはテラスで食べたり、外食も実施している。		希望に沿えるように、朝食べたいものを聞き、昼食や夕食のメニューを考えるようにしている。食器にも気を配り、見た目もおいしく食べられる工夫がなされている。調理や片づけの参加も多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取跡は、その都度記録に残し状況把握している。摂取困難な方には代替品、とろみゼリー、ミキサー食等、一人ひとりに対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。できる所は本人に、できない所は職員が介助を行っている。			

宮崎県延岡市 グループホームスローシティピアノ(ソナチネ)

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で一人ひとりの生活のパターンを把握し、トイレへ誘導し、失敗やおムツの使用を減らせるよう支援している。		声掛けのタイミングによって、失禁回数が減ったケースもあり、排尿のチェック表をもとに、一人ひとりに合わせた支援を行うよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録から、排泄のパターンや習慣を把握できるように努めている。また、体操をしたり水分補給にて便秘予防をしているが、それでも排泄が困難な時は、医師の指示で便秘薬を服用する事もある。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェックと体調、利用者の希望に沿って無理強いせず、ゆっくりと自分のペースで入浴できるよう配慮している。		入浴は毎日午後2時から4時までの間で用意されている。拒否のある方にも無理強いせず、声掛けの工夫で入浴を促している。ゆずやしょうぶなどで変化をつけながら、声掛けを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活歴、習慣を把握し、照明や温度調節を行なっている。また、日中布団を干したり、身体のかゆみにも気を配り、安心して眠れる環境作りをしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容ファイルにて確認できる。服薬の変更、症状の変化等でわからない事があれば、当事業所のクリニックに連絡を取ることが出来、記録、申し送り職員で全員把握に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、洗濯物たたみ、食器洗い、お盆拭きと、一人ひとりの役割りとして支援している。また、月の活動予定に回想療法をいれる事で、昔をなつかしみ、楽しんで頂けるよう努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調、天候等と、状況を考慮し、散歩やドライブ、買物に行っている。また、家族の協力を得て、外食、美容室、墓参りに行かれる方もいる。		ドライブや買い物には月に1度づつ、必ず出かけている。利用者の話の中で、家族との外出希望がある場合は、家族と話し合いを行い、水入らずの外出機会を促すよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物にでかけた時には本人に選んで頂き、お金を自分で支払えるよう支援している。また、困難な方にも、職員が付き添って対応している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に電話がかけたいとの要望があれば、その都度対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓からは光が入り、明るく暖かい空間がある。また、テラスには、テーブルや椅子が設置してあり自由に出入りできる。	廊下を含め十分な広さが確保され、歩行器や車いすの使用の導線を考えて、家具の配置をしている。まぶしい場所には、調節のためにロールカーテンなどを設置する予定である。換気や湿度調節にも気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、テレビ前のソファの他に、椅子や一人用ソファと、一人でゆっくりと過ごせる空間作りもしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との相談で、好きな歌手のポスターや家族の写真や本、ぬいぐるみを持参して頂き、本人らしい自室作りとなっている。	部屋ごとにエアコンが設置され、個人の体調に合わせて温度調節ができるようになっている。部屋のネームプレートは家族写真などを飾り、自室がわかりやすいよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーはもちろんの事、手摺りの設置をしている。また、トイレや居室前には写真、文字、番号を示し、わかりやすいように工夫している。			